

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2190500047		
法人名	メディカル・ケアサービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム各務原三井町		
所在地	岐阜県各務原市三井町2丁目12番地		
自己評価作成日	平成30年10月3日	評価結果市町村受理日	平成30年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JivvosyoCd=2190500047-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JivvosyoCd=2190500047-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成30年10月25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様との関わり、寄り添うケア、外出支援を行ない、楽しく生活が出来る様に取り組んでおります。誕生日などには、個別支援の関わりを大切にしております。地域の方、ご家族様にも参加して頂ける行事など取り入れ、関わりを大切にしております。また自立支援の統一をはかり、利用者様にも出来る事はして頂くよう意識して取り組んでおります。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

評価当日、ホームの複数の利用者と話をすることができた。利用者は、管理者を筆頭に「職員が優しく、本当に良くしてくれる」と、真剣な眼差しで話をしてくれた。一方、職員にホームの良い所を確認すると、「管理者を中心に、職員同士の良好な関係」を挙げ、この良好な関係が利用者への優しい支援に繋がり、利用者の「職員が良くしてくれる」との話しに繋がることを理解した。  
本年度の目標を「満足感あるホーム」と定め、利用者に寄り添い、それぞれの思いや意向の把握に努めている。本年から利用者の誕生日に、思いに沿った希望の外出(馴染みの場所やカラオケ、外食等)をスタートさせている。ホームでの暮らしは、利用者の能力に応じて、本人が望む趣味や家事を楽しむ機会を設けている。利用者の感謝の言葉は、それらの職員の支援に対してのものであろう。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、夕礼にて会社の理念を唱和し、ホームの理念は掲示し、会議などで話し合いを行なっています。	法人の理念を踏まえ、ホーム独自の目標に落とし込み、実践に反映するよう努めている。理念、目標をホーム内の目立つところに複数掲示し、さらに職員会議の議題として取り上げ、職員に浸透させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方々にホームに来て頂いたり、毎月のあんずの会に参加させて頂き地域の方と交流を図っています。	地域のシニアクラブの集まりに定期的に参加し、弁当付きの花見や落語会、手作り工作等、地域の知人を交えて楽しく交流している。幼稚園を訪ねて園児の歌や踊りを楽しみ、利用者の嬉しい時間を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などにも地域の方々が多く参加して下さり、情報を共有し地域の方と交流が持っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4か月に一回実施し、ホームの状況報告をし、意見等頂き、改善に努めています。	自治会長、民生委員、シニアクラブ役員等の地域代表、行政、知見者(同業者)の参加を得ている。ホームを含む地域高齢者の見守りについて、地域とホームとの連携策を定めて相互に協力することを決議している。	利用者同様、ホーム運営に関わる家族の参加がない。家族に参加を働きかけ、多方面から意見を交換して実践に反映するよう望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月一回は訪問し、現状報告や、必要な情報の交換を行っています。	行政からの相談を受け、利用者を受け入れている。入居後もホームと行政が連携し、利用者を継続して支援している。行政の開催する認知症カフェに利用者と共に参加し、地域交流の機会として活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三カ月に一度、不適切ケアチェックシートを各スタッフ実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	新人研修とホーム定期研修に身体拘束を取り上げ、職員は拘束をしない支援に努めている。また、職員は3ヶ月ごとに拘束に関わるチェックリストを用いてセルフチェックを行い、不適切な支援のないことを確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度、各ホームの代表が集まり話し合いを行ない、日々の業務の中での不適切なケアについて話し合い、スタッフに伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間のホーム内研修に必ず取り入れ、学ぶ機会を設け活用できるよう心かけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の読み上げ、十分な説明を行ない、質問等にもお応えさせて頂き不安にならないよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに家族様からの意見を伺ったり、家族会などで出た意見を参考にし、運営に反映させている。	訪問時や年1回の家族会の機会に意見を確認し、実践に反映するよう努めている。家族経由の利用者の『起床の声掛けが早い』の指摘を受け、検証を行って適正な起床の声掛けとなるよう見直している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員アンケートを実施し、職員の意見を聞く機会を設けたり、日常的にスタッフと話す時間、面談なども行ない意見を取り入れている。	2つのユニットそれぞれの職員会議と全体会議を毎月開催し、職員の意見を表す機会としている。管理者は定例会議の他、3ヶ月を目標に職員の個人面談の機会を設け、意見収集と実践の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム内研修を行ない、待遇や虐待についてなど必要な研修を毎月行い、スタッフが一人ずつ参加している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	協力して、基礎研修を行ない、ホーム会議などでも研修を行なっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事等の参加を呼び掛けたり、参加させて頂いてます。運営推進会議も合同で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わり、不安になられている事を理解し、出来得る限り関わりを持ちお話を傾聴するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階の相談の際に、ご家族の不安、ご要望を傾聴し安心して頂くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに入居された段階で他のサービス利用はむずかしいが、その人と家族様が必要と思われる事は支援に含めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の為の介護をさせて頂いてる事を職員にも認識を共有し、できない部分の支援をさせて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などには家族様との時間を大切にしております。一緒に外出して頂いたり、行事にも参加して頂けるよう呼びかけを行なっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の意向を伺いながら、外出支援に努めたり、面会にも来て頂いています。	友人・知人の訪問を受け、中には毎月友人と食事に出かけることを楽しみにしている利用者もいる。馴染みの床屋の利用、お寺への参拝や墓参り、趣味の俳句、編み物、塗り絵等の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況に応じて、席替えをしたり、利用者様同士が関わりあえるよう支援を行っている。人との付き合いが苦手な方にはスタッフと関われる様努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方のご家族が美容をして下さったり、転居先での本人様の様子など家族様からお聞きしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で口にされた言葉やご要望を拾いだしご本人本位の支援をしている	ケアマネジャーを中心に、職員会議や日々の職員の情報から利用者の思いや意向を把握して記録している。今年から誕生日の外出支援に力を入れ、利用者の意向を聴き取り実践に反映するようスタートしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居された時にご本人やご家族から情報を得る様に努めている。又ホームでの生活の中でも関わりの中で聞いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録を活用し、変化あれば共有し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員と共にモニタリングをして、居室担当職員として相談してケアプランを作っている。	介護計画は3ヶ月を目処に実施したプランの振り返りを行い、利用者、家族の意見を確認のうえ見直している。介護計画は、可能な限り「その人らしい」利用者それぞれの思いを反映するよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録、話し合いの中から必要な物を重要視し、ケアプランの見直しに努めています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心情の変化などにきをつけニーズに対応するサービスや支援に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事、ボランティアなど受け入れ、楽しく生活して頂ける様努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様の状態に合わせて、看護師とも相談し受診対応している。またご家族様が対応出来ない時には受診対応も行なっている。	かかりつけ医は、利用者・家族の希望医としている。ホームの協力医は訪問看護の看護師と連携し、24時間の体制を敷いている。外来受診は家族の同行を原則に、難しい場合は職員が協力して同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師が訪問し、看護連絡票を活用し、情報共有を行ない、指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中もお見舞いに行きながら、看護師と話し、状態の把握を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期に関しては、家族と話し合い、家族や本人の意向をくみ取り、事業所で出来る支援を、かかりつけ医、看護師と連携し支援に取り組んでいる。	入居時に家族に対してホームの看取りの指針を説明し、ホームでの看取りの希望を確認している。利用者の看取りに際しては、家族、医療関係者、職員を交えて話し合いの場を設け、後悔のない看取りとなるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、研修を定期的に行っている。新人スタッフも多く、ベテランスタッフと組み急変時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っている。その他にも災害時についての研修を行ない、運営推進会議などで地域の方の協力をお願いしている。	消防署の立会いを受け、年2回水害、火災、昼・夜想定避難、消火、通報訓練を実施している。防災設備、防災グッズ、飲食の備蓄を整え、有事に備えている。	運営推進会議の場で防災について話し合い、自治会長、民生委員等の災害時の協力の意思を確認している。地域の協力者の役割を明確にし、有事に機能するよう一考願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム研修を行ない、人格や、プライバシーに配慮した声掛け、対応をスタッフが意識して行えるよう図っています。	利用者の呼称は苗字に「さん」を基本とし、丁寧に優しい接遇に努めている。食事や歩行等は利用者のペースを大切に、職員都合とならないよう心掛けている。異性介助の苦手な利用者は、同性職員が支援としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の意見に耳を傾けながら、それに沿った支援が出来るよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、利用者様本位の支援が出来るよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類なども、ご自分で選べる方はして頂いてます。出来ない所への支援をさせて頂いてます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせながら、下膳や洗い物手伝って頂いてます。行事の時なども食事の準備などさせて頂いてます。	調理専門職員を配置し、家庭的で温かな食事を提供している。ホームの行事の際は、季節を感じる食事を提供して喜ばれている。利用者は下ごしらえ、下膳、食器洗い等を率先して行い、能力に合わせた役割がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態などで提供しています。水分をなるべく摂って頂ける様、こまめに提供したり、ジュースなど工夫して摂って頂いてます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人様の状態に合わせて、口腔ケアの支援をさせて頂いてます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らすために、定期的な声掛け、個々の排泄パターンに合わせた支援、その方に適した下着も検討しています。	排泄記録を参考に、利用者それぞれに合う声掛け・誘導を行い、失敗のない排泄に取り組んでいる。歩行に不安のある利用者は夜間のみ居室にポータブルトイレを配置し、安全な排泄となるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩対応など、身体を動かしてもらい働きかけや、夕食後の味噌汁の中に、糸寒天を入れ取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り希望に沿った支援をさせて頂いてます、拒否をされる方にも、時間を変えたり、同性で対応出来る様にしております。	2日おきの入浴を支援している。入浴を楽しめるよう入浴剤、季節の菖蒲湯や柚子湯を導入し、利用者の好みの湯温にも応じている。転倒の危険のある利用者はシャワー浴とし、安心・安全を確保している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた時間帯に休息してもらえるよう支援させて頂き、室温調整などさせて頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はスタッフが管理し、薬情を確認し、副作用について理解に努めている。薬の変更時にも申し送り連絡ノートを活用し伝達しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせてたり、希望に沿った役割などをスタッフと一緒にこなしたりしています。歌や、散歩など気分転換を図れるよう対応しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様対応の外出や、日々の散歩、遠足、外食など行事に取り入れ全員の利用者様が外出できるよう支援させて頂いています。	気候やその日の天候を考慮し、周辺の散歩やホーム屋外のお茶会を外気に触れ、気分転換をする機会としている。利用者の希望に沿い、地域のコンビニやショッピングモールに出かけ、買い物や外食を楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の管理はされておませんが、ご要望がある際には、スタッフと一緒に買い物に出掛けております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望で、電話でお話して頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間については、毎日清掃を行ない、写真なども掲示し、居心地良く生活できるよう工夫している。	毎日利用者と掃除を行い、利用者からの「トイレの汚れ」の連絡に、職員は速やかに対応して嫌な臭いのない明るく清潔な空間を維持している。居間のテーブル席の配置は、利用者の相性や変化を捉え、穏やかに過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席替えも考慮しながら、皆様が過ごしやすい環境でいられるよう工夫しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、馴染みの物を持参頂いたり、ホームでの生活の写真を飾らせて頂いています。	居室に大きな窓を設け、どの部屋も明るい。作りつけの収納スペースがあり、整理整頓を容易にしている。趣味の俳句、塗り絵、編み物、書籍の他、置時計、テレビ、仏壇、化粧道具、孫の絵等を自由に持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日共有部分に関しては清掃を行い、利用者様にも手伝って頂いています。危険な箇所などすぐに修復し安全に努めております。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500047		
法人名	メディカル・ケアサービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム各務原三井町		
所在地	岐阜県各務原市三井町2丁目12番地		
自己評価作成日	平成30年10月3日	評価結果市町村受理日	平成30年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190500047-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190500047-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成30年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様との関わり、寄り添うケア、外出支援を行ない、楽しく生活が出来る様に取り組んでおります。誕生日などには、個別支援の関わりを大切にしております。地域の方、ご家族様にも参加して頂ける行事など取り入れ、関わりを大切にしております。また自立支援の統一をはかり、利用者様にも出来る事はして頂くよう意識して取り組んでおります。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>
----------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、夕礼にて会社の理念を唱和し、ホームの理念は掲示し、会議などで話し合いを行なっています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方々にホームに来て頂いたり、毎月のあんずの会に参加させて頂き地域の方と交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などにも地域の方々が多く参加していただき、情報を共有し地域の方と交流が持っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4か月に一回実施し、ホームの状況報告をし、意見等頂き、改善に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月一回は訪問し、現状報告や、必要な情報の交換を行っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三カ月に一度、不適切ケアチェックシートを各スタッフ実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度、各ホームの代表が集まり話し合いを行ない、日々の業務の中での不適切なケアについて話し合い、スタッフに伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間のホーム内研修に必ず取り入れ、学ぶ機会を設け活用できるよう心かけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の読み上げ、十分な説明を行ない、質問等にもお応えさせて頂き不安にならないよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに家族様からの意見を伺ったり、家族会などで出た意見を参考にし、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員アンケートを実施し、職員の意見を聞く機会を設けたり、日常的にスタッフと話す時間、面談なども行ない意見を取り入れている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム内研修を行ない、接遇や虐待についてなど必要な研修を毎月行い、スタッフが一人ずつ参加している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	協力して、基礎研修を行ない、ホーム会議などでも研修を行なっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事等の参加を呼び掛けたり、参加させて頂いてます。運営推進会議も合同で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わり、不安になられている事を理解し、出来得る限り関わりを持ちお話を傾聴するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階の相談の際に、ご家族の不安、ご要望を傾聴し安心して頂くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに入居された段階で他のサービス利用はむずかしいが、その人と家族様が必要と思われる事は支援に含めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の為の介護をさせて頂いてる事を職員にも認識を共有し、できない部分の支援をさせて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などには家族様との時間を大切にしております。一緒に外出して頂いたり、行事にも参加して頂けるよう呼びかけを行なっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の意向を伺いながら、外出支援に努めたり、面会にも来て頂いています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況に応じて、席替えをしたり、利用者様同士が関わりあえるよう支援を行っている。人との付き合いが苦手な方にはスタッフと関われる様努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方のご家族が美容をして下さったり、転居先での本人様の様子など家族様からお聞きしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で口にされた言葉やご要望を拾いだしご本人本位の支援をしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居された時にご本人やご家族から情報を得る様に努めている。又ホームでの生活の中でも関わりの中で聞いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録を活用し、変化あれば共有し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員と共にモニタリングをして、居室担当職員として相談してケアプランを作っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録、話し合いの中から必要な物を重要視し、ケアプランの見直しに努めています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心情の変化などにきをつけニーズに対応するサービスや支援に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事、ボランティアなど受け入れ、楽しく生活して頂ける様努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様の状態に合わせて、看護師とも相談し受診対応している。またご家族様が対応出来ない時には受診対応も行なっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師が訪問し、看護連絡票を活用し、情報共有を行ない、指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中もお見舞いに行きながら、看護師と話し、状態の把握を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期に関しては、家族と話し合い、家族や本人の意向をくみ取り、事業所で出来る支援を、かかりつけ医、看護師と連携し支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、研修を定期的に行っている。新人スタッフも多く、ベテランスタッフと組み急変時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っている。その他にも災害時についての研修を行ない、運営推進会議などで地域の方の協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム研修を行ない、人格や、プライバシーに配慮した声掛け、対応をスタッフが意識して行えるよう図っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の意見に耳を傾けながら、それに沿った支援が出来るよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、利用者様本位の支援が出来るよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類なども、ご自分で選べる方はして頂いてます。出来ない所への支援をさせて頂いてます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせてながら、下膳や洗い物手伝って頂いてます。行事の時なども食事の準備などさせて頂いてます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態などで提供しています。水分をなるべく摂って頂ける様、こまめに提供したり、ジュースなど工夫して摂って頂いてます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人様の状態に合わせて、口腔ケアの支援をさせて頂いてます。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らすために、定期的な声掛け、個々の排泄パターンに合わせた支援、その方に適した下着も検討しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩対応など、身体を動かしてもらい働きかけや、夕食後の味噌汁の中に、糸寒天を入れ取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り希望に沿った支援をさせて頂いてます、拒否をされる方にも、時間を変えたり、同性で対応出来る様にしております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた時間帯に休息してもらえるよう支援させて頂き、室温調整などさせて頂いてます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はスタッフが管理し、薬情を確認し、副作用について理解に努めている。薬の変更時にも申し送り連絡ノートを活用し伝達しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせてたり、希望に沿った役割などをスタッフと一緒にこなしたりしています。歌や、散歩など気分転換を図れるよう対応しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様対応の外出や、日々の散歩、遠足、外食など行事に取り入れ全員の利用者様が外出できるよう支援させて頂いてます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の管理はされておませんが、ご要望がある際には、スタッフと一緒に買い物に出掛けております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望で、電話でお話して頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間については、毎日清掃を行ない、写真なども掲示し、居心地良く生活できるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席替えも考慮しながら、皆様が過ごしやすい環境でいられるよう工夫しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、馴染みの物を持参頂いたり、ホームでの生活の写真を飾らせて頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日共有部分に関しては清掃を行い、利用者様にも手伝って頂いています。危険な箇所などすぐに修復し安全に努めております。		